

富山第一高等学校 令和6年度 学校経営計画

1 学校教育目標

- 校訓の「剛健」「練体磨心」を基本理念に、知・徳・体、調和のとれた人材を育てる
- (ア) 心身ともに強く健康で、学力・品格ともに備わった人材を育成する
 - (イ) 課外活動を含め学校生活を通じて社会性と豊かな人間性を育む
 - (ウ) 生徒個々の能力・適性に意を用いた指導を行い、目指す進路を実現する

2 学校の特徴

生徒数は約 1,200 名の県下最大規模の全日制普通科高校である。1959（昭和 34）年に開校、卒業生は 3 万 4 千名を超え、各界各層で活躍している。「総合コース」「美術コース」「特別進学コース」に加え、令和元年度から「S 特別進学コース」を設置した。多様な生徒が在籍しており、生徒の適性と希望進路に応じた特色ある教育を行っている。文武両道を標榜し、進学、部活動ともに実績を積み重ねている。

3 学校の現状と課題

部活動に熱心に打ち込む生徒が多く、複数の運動部が例年全国大会に出場している。文化部も全国を舞台とする大会やコンクールで多くの生徒が入選・入賞している。部活動は活発で、学校全体に活気がある。

9 割前後の生徒が毎年進学するが、自学自習への主体的な取り組みは十分とは言えない。学習習慣の定着と学力の一層の向上は継続した課題である。例年 1 割程度の生徒が就職を目指し、内定率は 100%を維持している。

生徒が学力、体力、道徳、社会性を身に付け、調和のとれた有為の人材として社会に貢献できるよう、生活指導を基本にきめ細かな指導を心掛けている。

全校生徒が自身の端末を持ち、学校と家庭との連絡や、授業での ICT 活用を進めているが、十分に活用できているとは言えず、教員のスキルアップと生徒の活用習慣の定着に向けた努力が必要と考えている。

また、生徒の課題解決能力を育むため、探究活動の充実に取り組むとともに、生徒会活動の活性化をもとに、主体的・協働的な生徒の育成を目指す。

4 学校教育計画(アクションプラン)

重点課題 1 学習活動

目 標	①ICT を活用した授業および家庭学習の定着 ②本校の実態に即した評価方法の確立
方 策	①昨年度と同様、Google Classroom を積極的に活用する。課題の提出や 考査範囲の確認など、生徒の積極的なタブレット利用を推進すると ともに、Meet などによるオンライン授業やスタディサプリ、Classi の動 画配信など教員の ICT スキルの向上を目指す。 ②今年度、全学年が新課程になる。第 1・2 学年は前年度の評価方法の 改善すべき点を洗い出し、本校の現状に即したものになるように検討 する。第 3 学年は 1・2 年次の評価方法を踏まえ、他校の情報を収集 し、本校の実情に応じた評価方法を考える。

重点課題2 探究活動

目 標	3年間を見通した総合探究のカリキュラムを編成し、その実践を通して生徒の課題解決能力を育む
方 策	①生徒が自らの興味・関心に基づき探究課題を設定し、仮説に基づいて協働で探究を進める探究活動を設計・実践する。 ②生徒が自分の視点で社会課題を見つめ、課題を解決するためにビジネスプランを創出する探究活動を設計・実践する。 ③高大連携活動を発展させ、大学の学問領域にもつながるプロジェクト型学習 PBL の探究活動を設計・実践する。

重点課題3 学校生活（第1学年）

目 標	高校生活の土台としての基本的な生活習慣の確立
方 策	①「爽やかな挨拶」ができるように、学年全体に呼びかけ、特に朝のHRで挨拶ができるようにする。 ②「品位ある身だしなみ」が身に着くように、頭髪服装検査等を活用し、学年全体で身だしなみに関する指導に取り組む。 ③「時間を守る」生徒を目指し、5分前行動を意識した行動を促す。

重点課題4 生徒指導

目 標	①公共交通機関利用マナーの向上及び自転車運転ルールの徹底 ②すすんで挨拶ができる生徒の育成 ③地域の状況、社会常識、時代の進展などを踏まえた校則の確立
方 策	①校前指導を行う。 ②「さわやか運動」では、生徒会、保護者、地域住民と連携した挨拶運動を推し進める。また、乗車指導を行う。 ③学年集会などで公共交通機関利用マナーを訴え意識喚起を行う。 ④交通安全指導の日を設け、通学路に出向き、交通指導を行う。 ⑤生徒会と連絡を密にし、生徒自らが校則と向き合えるよう取り組み、生徒が主体的に校則を守るような土壌作りを行う。

重点課題5 生徒会活動・特別活動

目 標	生徒会活動、学校行事、ボランティア活動等を通し、主体的に活動できる生徒の育成
方 策	①生徒会会則に則った生徒会の運営を行い、主体的な生徒会活動を行うことができる体制づくりを進める。 ②生徒会執行部(執行委員会)の活動を活発化するとともに、各委員会において年間計画を作成し具体的な活動を推進する。

重点課題6 保健指導（保健部）

目 標	①生命を尊重し、生涯にわたり自らの健康を管理できる生徒の育成 ②感染症予防対策の実践力の向上 ③学内の衛生環境の改善
-----	--

方 策	<p>①保健委員会としての活動を通じて、生徒が主体的に健康を管理できる資質を養う。</p> <p>②感染症予防や衛生環境の重要性について、保健だよりや委員会活動などを通じて啓発活動を継続する。</p>
-----	--

重点課題7 進路支援

目 標	<p>①入試改革に伴う入試制度及び大学入学共通テストの情報収集と分析、生徒への発信</p> <p>②動画配信等、オンライン教材の活用による生徒の基礎学力の向上</p> <p>③多様化する入試情報の迅速かつ正確な発信</p>
方 策	<p>①大手予備校からの情報や各種学校説明会に参加して得た情報を取捨選択し、各学年の担任に校内 LAN などを利用して適宜配信し、情報の共有を図る。</p> <p>②各種学校や業者から送付されてきた資料について、校内 LAN を活用し、担任を通じて生徒に配布できる環境を整える。</p> <p>③各学年の特性に応じた適切な情報を配信する。 1 学年：2 年次に選択する系の情報に加え、1 年次から受験を意識できるような情報の提供 2 学年：各種学校の設置する学問分野の情報だけではなく、入試制度に関する情報の提供 3 学年：志望校決定の参考になる情報や入試制度および昨年度の状況に関する情報の提供</p> <p>④生徒の進路志望調査をもとに、複数の教員が共通理解を持ち、進路実現につながる指導を行う。</p> <p>⑤スタディサプリを利用し基礎学力の向上を図る。</p> <p>⑥動画配信を利用した大学の講義を見たり、大学の教員と直接話したりすることによって、志望進路の具体化につなげる。</p> <p>⑦受験に関する様々な事項のオンライン化に対応し、情報提供を行う。</p>

重点課題8 情報発信

目 標	<p>①在校生とその保護者に向けた迅速な情報発信を通し、本校への理解と信頼の構築</p> <p>②受験生（中学生）とその保護者に向けた本校の特色や魅力の発信</p>
方 策	<p>①在校生とその保護者に向けて、充実した学校生活を送るために必要な情報をタイムリーに発信し、生徒・保護者・学校が一体となった教育活動を実践する。</p> <p>②受験生（中学生）とその保護者に向けて、本校の特色や魅力が十分に伝わるように内容や表現を工夫するとともに、最適な手段を利用して情報を広く外部に発信する。</p>